



ABILITY

ABILITY Pro徹底攻略！

その13 曲作りに必要なものが揃う「First Studio Set」が新登場！

パソコンを使って宅録を始めたいと思った時、曲作りの中心となるDAWソフトとサウンドの出入り口となる外付けハードウェア「オーディオ・インターフェイス」が必要になります。今回、それら音楽制作に欠かせないツールが一発で手に入るパッケージとして、DAWソフト「ABILITY Pro」、または「ABILITY」にZOOM社のオーディオ・インターフェイス「UAC-2」を組み合わせたセットが登場しました。（文：平沢栄司）

高音質な録音やモニターに欠かせないオーディオ・インターフェイス

「ABILITY」シリーズを導入すれば、パソコンに内蔵されるオーディオ機能を使用して音楽制作を始めることは可能です。しかし、ABILITYの高音質なサウンドやソフトシンセをフルに活用することは難しく、ギターやボーカルを録音する際は楽器やマイクの接続で苦労するでしょう。やはり本格的な宅録環境には、オーディオの出入り口である「オーディオ・インターフェイス」は不可欠です。でも、これから宅録に挑戦したいという人は選択肢が多すぎて、どれを選べば良いのか迷ってしまうと思います。そこで登場したのが、宅録のスターパックとも言える「ABILITY Pro First Studio Set」と「ABILITY First Studio Set」です。ABILITYシリーズとオーディオ・インターフェイスを組み合わせたセットなので、すぐに本格的な宅録が楽しめる環境が整います。

付属するZOOM社オーディオ・インターフェイス「UAC-2」とは？

この「First Studio Set」には、オーディオ・インターフェイスとしてZOOM社の「UAC-2」が付属します（写真1）。パソコンとはUSBケーブル1本で接続することができ、電源もUSB経由でパソコンから供給されるので、機材のセットアップが簡単なのも宅録ユースで重宝しますね。スペックも充実していて、最高で24bit / 192kHzの録音 / 再生ができ、高速なUSB3.0に対応しているため、レイテンシー

（発音の遅れ）を非常に小さく設定できるのが特徴です。この低レイテンシーは、ソフトシンセの演奏やABILITYの内蔵エフェクトを使用した「かけ録り」のモニターで威力を発揮します。

コンパクトなボディーには2ch分の入出力端子があり、入力にはマイクプリとファンタム電源が用意されているため、ダイナミック・マイクに加えてコンデンサー・マイクも使用可能です。また、楽器を接続する場合は、ライン入力とギターやベースなどのハイ・インピーダンスの楽器が直結できるHi-Z入力が切り換えられるので、マイクとギター、ギターとベース、マイクorギターを2本など、宅録でよくあるレコーディングのシチュエーションに対応できます。

そして、演奏のモニターで利用できるDSP（エフェクター）を内蔵している点にも注目。例えば、ボーカルをレコーディングする場面では、ABILITYのトラックには生の歌声を録音しつつも、モニターの歌声にはリバーブをかけて気持ち良く歌うといったことが可能です。その他、内蔵のMIDIインターフェイスを利用すれば、USB端子を持たないMIDI楽器をABILITYのMIDIトラックで演奏したり、デジタルピアノなどをMIDIキーボードとして打ち込みで利用することもできます。

曲作りをサポートする機能満載のDAWソフト「ABILITY」シリーズ

このページで紹介してきた「ABILITY」は、ソフトシンセを使った打ち込みによる伴奏トラックの作成、オーディオのレコーディングと編集、プラグイン・エフェクトを駆使したミックスまで、音楽制作のすべてを網羅したDAWソフトです（画面1）。

特筆すべきは、国産ソフトならではの手厚いサポートをはじめ、作曲を支援するアレンジ機能や各種フレーズ素材の数々、打ち込み支援機能などなど、DTMに不慣れな初心者はもちろん、腕に覚えのある人も効率良く曲作りが進められる機能の数々でしょう。

そんな支援機能を利用したABILITYの曲作りの進め方はこんな感じです。まず、コード・トラックへ曲の骨組みとなるコード進行を入力するか、付属の

コード進行データを貼って作成。続いて、フレーズ素材からドラムループや各パートのフレーズを貼ったり、5パートの伴奏を作成するアレンジ機能を利用してコード進行に合わせた伴奏トラックを完成させます。このように、すべてをゼロから打ち込まなくても、思い浮かべた曲のイメージを具体的な音へとスムーズに仕上げていくことが可能なのです。

そして、伴奏をバックにギターやボーカルを録音した後にトラックを編集してベストテイクを作成し、内蔵のエフェクターを駆使して音作りをしながらミキシングすれば1曲の完成となります。

その他のABILITYならではの機能も紹介しましょう。まず、ピッチ補正機能「ボーカル・エディタ」には、ボーカルのピッチやタイミングを修正するだけでなく、最大で3声のハモリを自動的に作成してくれる「AUTOハーモニー機能」が用意されています。ボーカルさえ録ってあれば、あとから簡単な操作でハモリのトラックを追加することができるのです。

また、VOCALOIDとの連携機能を使えば、ボカロ口・パートの入力と再生を行なうソフトウェアの「VOCALOID Editor」とABILITYを同期演奏させて、歌声をABILITYのミキサーに立ち上げて伴奏とミックスできます。つまり、本来はバラバラに行なうボカロ口の打ち込みと伴奏の作成を同時進行で行なうことが可能です。

「First Studio Set」を手に入れるには？

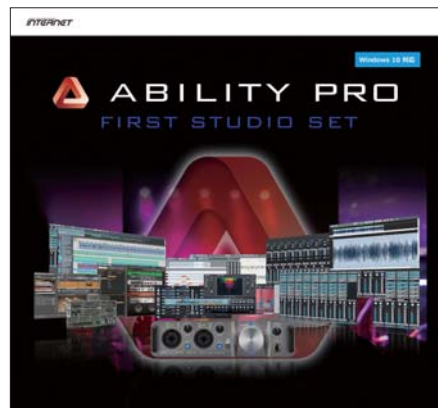
ABILITY Pro / ABILITYとUAC-2をセットにした「First Studio Set」は、INTERNET社のオンラインショップ（画面2）並びにAmazonでの限定販売です。「First Studio Set」のホームページではさらに詳しい情報も入手可能です。



写真1 24bit / 192kHzの録音・再生が可能な2in / 2outのオーディオ・インターフェイス。マイクやギター、シンセなどを接続して録音したり、高音質＆低レイテンシーの再生が可能



画面1 作曲を支援する様々な機能を備えた国産DAWソフト「ABILITY Pro」。付属の音源やエフェクト、フレーズ素材などが充実し、これだけで十分な音楽制作が楽しめる



画面2 「First Studio Set」の購入はFirst Studio Setのホームページで確認しよう。http://www.ssw.co.jp/ability_fss/